円通（えんづう）院

円通院は1467年に建てられたと考えられています。元々は観音菩薩に捧げられたものでした。 寺の創設時に建てられたこの観音菩薩は、現在も寺院内に保管されています。 1633年以降、秋元泰朝氏の希望で曹洞宗に改宗しました。

都留にある多くの礼拝堂の中でも、この寺では特に、1753年に建てられた鐘楼、1668年に作られた梵鐘、1748年に建てられた覚雄殿門、 17世紀初めに建てられた薬師堂など、多くの江戸時代（1603-1867年）の構造物を見ることができます。 特に興味深いのは、その時代の最高の職人によって鍛造された350年前の梵鐘です。 20世紀に入って、武器を生産するために多数の鐘が徴収されましたが、この鐘はそのような運命を逃れた数少ない鐘の一つです。 現在、都留市の文化財に指定されています。

これに加えて、寺の敷地には、数百年前に作られた古い石橋があります。この橋は以前、家中川に架かっていましたが、20世紀初頭この寺に移動されました。また、俳人松尾芭蕉（1644-1694）が寺院を訪れた時に書いた俳句があり、本堂には有名な19世紀画家葛飾北斎（1760-1849）の絵画がいくつか飾られています。